

日本体育学会 体育哲学専門領域
2020年度 第3回 定例研究会プログラム

日時：2021年2月27日(土) 13:00～16:20
オンライン (ZOOM) による開催

1. オンライン開催のお願い

オンライン開催のため資料、動画はインターネット経由で提供されます。以下の点にご協力をお願いします。

- 動画の URL 情報を **第三者に提供することを禁止** します。
- 動画の **ダウンロード、スクリーンショット、画面録画・録音を禁止** します。

2. プログラム

【代表挨拶】

13:00 開会：代表挨拶 関根 正美（日本体育大学）

【研究発表】

13:05 発表① 水島徳彦（東海大学大学院）
演 題 スポーツ倫理学の形而上学序説

13:50 発表② 劉 曉宇（明治大学大学院教養デザイン研究科）
演 題 戦後日本の純潔教育にみるセクシュアリティの変容と生権力
— 性教育のなかの処女と童貞をめぐる言説 —

休憩

14:45 発表③ 本並健太（筑波大学大学院）
演 題 アスリートのキャリアトランジション問題における欲望形成支援の可能性

15:30 発表④ 阿嘉 翔也（筑波大学大学院）
演 題 運動部活動における〈管理された自主性〉とその克服可能性
— 規律システムから抜け出すための「守・破・離」 —

【副代表挨拶】

16:15 深澤 浩洋（筑波大学）

4. 発表抄録

【発表者・演題】

水島徳彦（東海大学大学院）
スポーツ倫理学の形而上学序説

【抄録】

本研究は、スポーツ倫理学を狭隘な共同体論理に収斂させないためにも、広義の倫理学から狭義のスポーツ倫理学を射影するという試みを通じて、スポーツ倫理学を再考・構築することである。その際、スポーツ行為者の道徳・倫理的行為に関する主体であるスポーツ行為者に焦点を当てる。方法として、スポーツという特権に胡座をかくことない倫理のあり方を学理論として構築するために、経験的要素を極めて厳格に取り除いて構築されたカント倫理学を手がかりとする。

【発表者・演題】

劉 曉宇（明治大学大学院教養デザイン研究科）
戦後日本の純潔教育にみるセクシュアリティの変容と生権力—性教育のなかの処女と童貞をめぐる言説—

【抄録】

本研究は、日本の学校にはじめて性教育を位置づけるイデオロギーとなった「純潔教育」の言説分析である。1968年までの主要著書を分析すると、「性規範の二重基準」を明示する言説はみられない。しかし、科学的な身体を前提とする「産み育てる身体」と、性欲の男女非対称（男の性欲は抑え難いもの）を前提とする「女性自身が身体を守る」という言説に二重基準が暗示されていた。また、二重基準の変容を求めるジェンダー論が初期の2冊にみられたにもかかわらず、文部省をはじめとする他の著書にジェンダー論が取り上げられることはなく（70年代までは「語られなかった」）、主流の言説とはなりえなかった。こうした純潔教育の言説は、「解剖—政治学」的な規律訓練と同時に、「生—政治学」的に生殖・健康を管理する「保健体育科」の誕生に影響を与えながらも、「身体の純潔」と「精神の純潔」を分離させることで、自らの足場を切り崩し、「純潔教育」から「性教育」への転換を準備したのである（非言説空間への影響）。

【発表者・演題】

本並 健太（筑波大学大学院）
アスリートのキャリアトランジション問題における欲望形成支援の可能性

【抄録】

本修士論文の目的は、アスリートのキャリアトランジション問題を解決するための視点を明示することである。具体的には、これまで議論の中心であったアイデンティティ論の限界を示し、その理論とは対照的な立場にある実存思想に着目する。そこから示される欲望という視点を手がかりに、アスリートの欲望のあり方を分析する。それにより、彼らがキャリアトランジション問題に陥らないためのアプローチ、すなわち、欲望形成支援の可能性を導き出したい。

【発表者・演題】

阿嘉 翔也（筑波大学大学院）
運動部活動における〈管理された自主性〉とその克服可能性— 規律システムから抜け出すための「守・破・離」—

【抄録】

本修士論文の目的は、運動部活動における〈管理された自主性〉の実態を明らかにし、生徒がそれを克服する可能性を示すことである。その自主性は、生徒が指導者の権威を媒介し、自ら規律システムに進入することによって形成される。そのような生徒は、芸道の世界における「守・破・離」にならい、指導者の規律に疑いの目を向け（「破」）、指導者の指示を理解しながら、状況に適した行動を選択すること（「離」）によって、〈管理された自主性〉を克服する可能性を開くことができるだろう。

定例研究会に関するご質問・ご意見は下記までお願いします。

【問い合わせ先】

森田 啓（研究担当）： hirakumorita@p.chibakoudai.jp